すべての子供の活躍の舞台　日野第八小学校　ー子供たちがつくる学校プロジェクト　教育課程の概要ー

070401

「学校づくり」を通して、子供たちが身に付けていく力

〇社会の中で自立して生きるために必要な力の「基盤」（自立した学習者としての資質・能力）

①　「AAR サイクル」を自分自身で回し続ける力

＜基盤＞

自ら課題を設定し、自分で考え、判断し、行動して課題を解決する力

この力の獲得の過程で

実感

自分が動けば、何かが変わる！

自分への自信（自己肯定感・有用感）

②　集団の中で自分を生かす力

＜基盤＞

多様性を認め合い、自分の考えをもって様々な個性や能力をもった人と関わり、自他の課題解決と新たな挑戦・創造のために協働する力

この力の獲得の過程で

実感

仲間と動けば、何かができる！

協働・共生の意義と価値の実感

将来において、自他の「ウェルビーイング」を実現するための力

図中の下線部は「学校経営方針」の「目指す子供像」

子供たちと共にめざす学校づくりのテーマ

―　今より　もっと楽しい　学校をつくる！　―

テーマを実現するための「学校づくりの目標」

令和3年度　今できることに　力いっぱい！　　**令和4年度**　ありがとうが　あふれる学校

令和5年度　くふうでつくる　日野八小　　**令和6年度**　すすんで・みんなで・楽しんで　ーチャレンジ　ひのはち！ー

令和7年度　：　やってみよう・やりとげよう　ーレッツ・トライー

〇子供たちと教職員との協働で「今よりもっと楽しい学校」を実現するための1年間の「学校づくりの目標」を設定する。（上記）

〇すべての学年に、発達の段階に応じて果たすべき役割がある。子供たちが、仲間と協働して目標を達成していく過程でこの役割を果たせるように導き、「学校づくりの目標」の実現を目指す。

〇教員と保護者は子育てのパートナーとなり、子供たちがトライ＆エラーを繰り返しつつ、「学校づくりの目標」の達成に向けて安心して取り組める環境を整えたり、共に活動したりする役割を担う。

各学年の役割

学年	役割	期待すること
６年生	リーダー	〇最高学年として、日野第八小学校を、全校の子供たちにとって「今よりもっと楽しい学校」にするために力を尽くす。 〇最高学年としての１年を、自分たちの力で、自分たちにとってかけがえのないものにつくりあげる。
５年生	サブリーダー	〇６年生がリーダーとして活躍できるよう、６年生を支え、６年生の動きをフォローする。　（１年生から４年生までが、６年生のリードで動けるように声をかける。） 〇最高学年になったらやってみたいことを、はっきりと描く。
４年生	リーダーへの入門	〇日野八小の上学年の一員として、５年生と６年生の動きをよく見る。 〇次のサブリーダー、リーダーとしての力を身に付けるため、学年・学級をよりよくするための取り組みを、自分たちの力で積極的に進める。
３年生	下学年の最高学年	〇下の学年のリーダーとして、２年生・１年生を見守り、頑張っている姿を見付け、声をかける。 〇学級をよりよくするための取り組みを、自分たちの力で進めていく。
２年生	１年生を見守る	〇１年生を見守り、助け、１年生のお手本になる。 〇１年生と一緒に過ごしながら、学校の楽しさを伝えていく。
１年生	自分でできることは自分でする	〇自分でできることは自分でしようとチャレンジする中で、できることをひとつずつ増やしていく。 〇次の１年生が困っていたら助けることができる力を身に付ける。

「子供たちがつくる学校」を実現する教育活動の工夫（重点）

各教科等

習得・活用　自己調整　課題解決

「できた・分かった・高まった」の実感

〇子供たちが、既習事項を活用し、仲間と協働して、自分の学習を自分で調整しながら、課題を解決する学習活動の工夫

・基礎的・基本的な内容を習得し、それを活用して学習課題の解決に取り組み、既習事項を定着させるとともに、新たな学習課題の解決に取り組み、学びを深めていく学習指導の工夫
・自分で考え、仲間と共に学んだことで「できた・分かった・高まった」が実感できる学習指導の工夫
・学習者用端末や ICT を効果的に活用した学習指導の工夫

生活・総合的な学習の時間

子供発　探究的な学び

既習事項・経験のフル稼働　実践的な学び

〇子供たちが、既習事項を活用し、多様な他者と協働して、自分たちの課題を存分に追究し、解決していくことができる探究的な学習の実施

・「課題設定→情報収集→整理・分類→まとめ・表現」の学習過程による探究的な活動の実施
・校内、地域の自然、人材、施設を活用し、地域をフィールドにした学習活動を実施し、学習したことを学校生活や地域に生かす実践的な活動の実施
・第1～6学年のテーマや学びのつながり・発展の整理と明確化

特別活動

自主・自立　自律・自治

自分たちの力で学校を変えていく活動の充実

〇子供たちが、経験を生かし、仲間と共に納得解・最適解を見いだして、自分たちの学級・学年・学校をつくり上げていく多様な活動の工夫

・学級活動等の充実による納得解・最適解の見いだし方の習得と、自分たちの関心に基づく活動の共創
・なかよし班活動、クラブ・委員会活動などの異学年活動の活性化
・実践、発信、議論する ESD ミーティングへの発展

特色ある教育活動

〇「子供たちがつくる学校プロジェクト」
・各学年が役割を果たし、自分たちの学校を自分たちでつくる。教職員はそれを支え、子供たちと共に学校をつくる。

〇特別支援教育の充実と推進
・つばめ学級の環境整備や指導の充実、学級経営の安定化・円滑化を図る取り組みを、全教職員で行う。
・ステップ教室と担任がチームで指導を行う。

〇なかよしプレイタイム
・異学年による運動遊びを充実・発展させる。

〇ＥＳＤミーティング
・SDGsについて子供同士が議論する場をつくる。（提案に基づく双方向による意見交換）

〇スタートカリキュラムの実施
・遊びの要素を生かした段階的な授業を行う。

「子供たちがつくる学校」を支える風土づくり

道徳

生き方　実践力

多様な価値観の理解

〇いのち、よりよい学校・集団生活、思いやり・親切を重点
・答えが一つではないテーマでの議論　・実践意欲の向上

生活指導

自己指導力の育成

自己存在感の実感　　共感的な人間関係の育成　　自己決定の場の設定　　安全で安心できる環境　　居場所

〇学習指導と生活指導の一体化
・学習指導の中で多様性の理解、共生の理念、他者とのかかわり方等を学び、自己実現への意欲を高める。

〇組織的な生活指導体制・相談体制のよる対応
・ケースに応じた対応チームを編成し、PDCAサイクルに基づく指導を実施する。
・関係機関の協力を得て、家庭との連携を強化する。

〇いじめ・問題行動等への対応
・未然防止の指導、早期発見対応のための指導、確実な解決のための指導の3観点から計画的・継続的な指導を行う。

〇不登校への対応
・もっと楽しい学校、わかる授業を追究し、未然防止と早期対応を行う。
・不登校及び不登校傾向のある子供が安心して過ごせる校内の居場所づくりを行う。
・個別のケース会議を適宜実施し、役割分担を明確にして、子供及び家庭の実状に応じた組織的な支援を行う。
・保護者及び関係機関との連携を密にし、教職員以外の SC や SSW、その他の機関に繋がっていない子供や家庭を「0」にする。